

いきもの記

Vol.170 2026.2.4

生物教員 佐藤龍平

修学旅行初日は平和学習。戦争の話は重いが、だからこそ高校生にもきちんと受け止めてほしいと思っていた。つらい話にもみんな真剣に向き合っていて、連れてこれて本当に良かった。ぼく自身も戦争のむごさを改めて思い知り、この日はとても気持ちが重くなった。

さて、平和学習への思いも色々あるが、ここでは生き物にフォーカスする。平和祈念公園を見学していた時、バスガイドのナカネエが足元のモモタマナの実を指さし、「これはオオコウモリが食べた跡さ～」と教えてくれた。見事に実が削れている！オオコウモリと聞いてもみんなはピンときていなそう。「翼を広げたら1mだよ」と教えたら「でか！」「そんなのがこんなところに？！」と驚いていた。後で聞いたら、他クラスのガイドさんからはこの解説が無かったらしいのでラッキーだったようだ。

その日の夜、部屋長会議のためにホテルの別館に移動しようと外に出た時、頭上を大きな黒い影が横切った。オオコウモリだ！沖縄とはいえふつう冬は寒いから（この修学旅行中は異例の暖かさ）、正直、1月に野生動物が見られるとは微塵も思っていなかった。ミフミやルイが出発前に「沖縄で生物を探すんだ！」と意気込んでいたもんだから、ムリムリといなしていたぐらいだ。いると分かってからは積極的に探してみると、めっちゃいる！木の上で数匹集まってギャーギャー騒いでるし、バサバサ飛ぶ音も聞こえてくる。すっかり楽しくなって、翌日もその翌日も、夜は空を見上げ続けて首が痛くなってしまった。みんなには見せてあげられなかったが（2,3泊目は生徒は民泊で、地元の各御家庭で寝泊まり。ぼくら教員とは別行動。）、代わりに他の先生方と楽しくオオコウモリを観察した。

それにしても、こうやって生物探しに興じながら楽しく暮らしているこの時間はじつに平和だ。もし、明日の暮らしもままならない状況なら、他の生物の暮らしになんか目がいかない。この地で起きた過去の悲劇を思えば、改めて、決して“当たり前ではない”この平和の有難さを噛み締めなければいけないよなあ。そんなことを、オオコウモリが優雅に舞う沖縄の空を見上げながら考えていた。



オリイオオコウモリが飛び立つところ　ぶら下がった状態からどうやって飛んでいくのか不思議だったが、背中側に飛んでいった。人間だったらかなりアコロバティックな動きだ。

沖縄特集② 1mもある巨大コウモリ！ オリイオオコウモリ



沖縄修学旅行で泊まったホテルの目の前にいたオリイオオコウモリたち

1月 沖縄県本部地区。クビワオオコウモリは国内外で5つの亜種に分かれている、そのうち沖縄諸島亜種をオリイオオコウモリ、西表島で見た八重山亜種をヤエヤマオオコウモリ（Vol.119）と呼んでいる。5亜種の中ではヤエヤマオオコウモリが最小だそう。首の周りが黄色っぽくて首輪をしているように見えるのが名前の由来。「オリイ」というのは、戦前に活躍した鳥獣採集人の折井彪二郎にちなんだ。絶滅危惧種に指定されているが、沖縄では国際通りなどの那覇の市街地でも普通に見られる。超音波は使えないため耳が小さく、目が大きい。英名 Flying fox（飛ぶキツネ）。



飛ぶ様子 翼を広げると1m程ある。大きすぎて、近すぎて、写真からはみ出てしまった。この近さで飛ばれると結構びっくりする。首にマフラーを巻いているように見えてかわいらしい。



写真左上：モモタマナの実（左から順に無傷、オオコウモリが少し齧った実、全体を齧られた実）



写真右上：平和祈念公園のモモタマナの木。市街地にもたくさん植えられている。



写真右下：ホテルの目の前のヤシの木の汁を吸うオオコウモリ